

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 24 週 (6 月 11 日～6 月 17 日)

今週のコメント

～夏型感染症 (咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病) ～手洗いが重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ、手足口病ともに増加」

第 24 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,669 例であり、前週比 5.4%減であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.0、2.9、1.1、0.6、0.4 であった。

感染性胃腸炎は前週比 9%減の 1,389 例で、南河内 11.9、豊能 8.7、中河内 8.5、北河内 8.0 である。

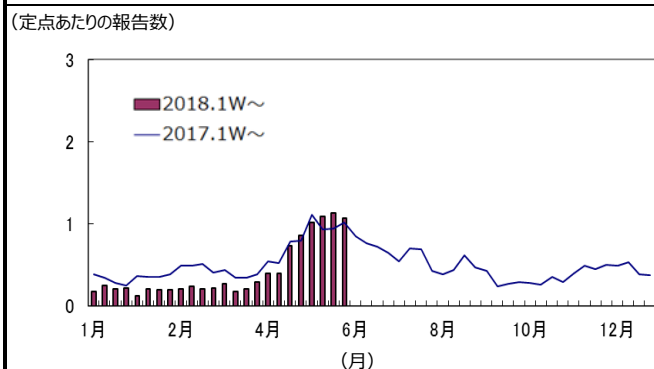
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 9%減の 582 例で、南河内 4.1、中河内 3.9、堺市 3.5、豊能 3.2 であった。

咽頭結膜熱は 6%減の 211 例で、中河内 2.1、北河内 1.5、大阪市南部 1.3 である。

水痘は 24%減の 89 例で、豊能 0.8、大阪市西部 0.7、堺市・三島・北河内共に 0.6 であった。

なお、第 7 位のヘルパンギーナは 279%増の 72 例で、定点あたり 0.4、第 8 位の手足口病は 52%増の 67 例で、定点あたり 0.3 である。

咽頭結膜熱



ヘルパンギーナ

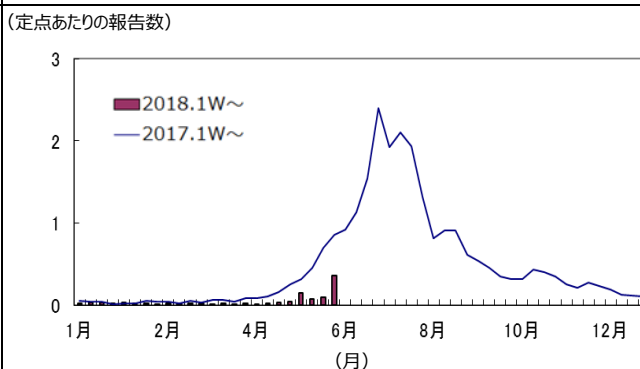


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 24 週 6 月 11 日-6 月 17 日)

第 24 週 の順位	第 23 週 の順位	感染症	2018 年 第 24 週 の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 24 週 の 定点あたり 報告数	2018 年 第 24 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	7.0	9%減	8.5	1 歳_16%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.9	9%減	3.7	4 歳_12%
3	3	咽頭結膜熱	1.1	6%減	1.0	1 歳_38%
4	4	突発性発しん	0.6	1%増	0.6	1 歳_50%
5	5	水痘	0.4	24%減	0.3	6 歳_15%

第 24 週のコメント

～百日咳～ 2018 年 1 月 1 日より、全数把握感染症になりました

全数把握感染症

百日咳

百日咳は、百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) による急性の気道感染症である。潜伏期は通常 5～10 日で、かぜ様症状で始まり（カタル期）、百日咳特有の咳が出始める（痙咳期）。新生児や乳児早期では、肺炎、脳症を合併することがある。マクロライド系抗菌薬が有効であるが、近年国外では薬剤耐性菌も報告されている。百日咳の予防には、ワクチン接種が有効であり、乳幼児期に計 4 回接種されている。国内では、成人層の感染者数が増加傾向にあり、2018 年 1 月 1 日に小児科定点把握感染症から全数把握感染症に変更された。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[百日咳とは\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

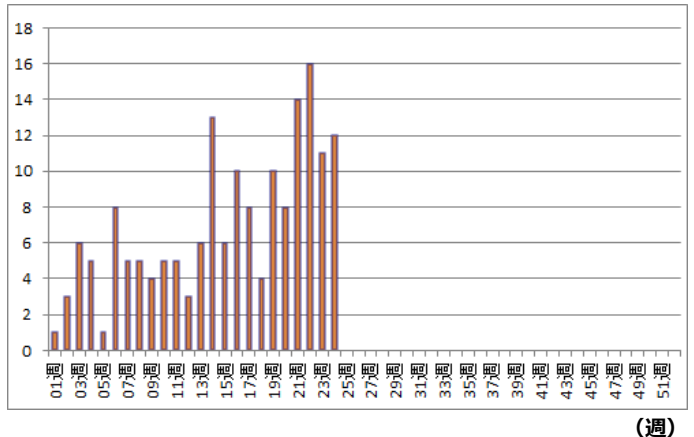


表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成 30)年 第 24 週 6 月 11 日 - 6 月 17 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2							2	81
4 類感染症	デング熱	1						1		6
	日本紅斑熱	1							1	2
	レジオネラ症 (肺炎型)	4				1			3	32
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	急性弛緩性麻痺	1		1						1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		1						161
	梅毒	7	1				2		4	522
	百日咳	12	2	1	2		1	1	5	169
結核 (2018 年 4 月分)	結核 新登録患者数 : 149 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 49 名) (府内累積報告数 576 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 220 名)									
麻しん、風しん	報告はありません									

(2018 年 6 月 19 日 集計分)